

財團法人明治聖徳記念學會紀要 第貳拾九卷

研 究

(本紀要所載論文は凡て署名者の責任にして本會の意見を代表するものに非ず)

池邊眞榛大人の名著「古語拾遺新註」 自序の發見

文學博士 加藤 玄 智

余は客年十一月、徳島市に出張して、池邊眞榛大人の令孫池邊廣一氏に面會し、親しく同君所藏の大人の自筆本の數々を拜見する機會を得た、その中既に一見して居つた大人の自筆と稱する古語拾遺新註の原本の外に、更に大人自筆の端本原稿を探り求めてをる中、遂に大人自筆の自序を發見した、之れは如上の池邊家所藏の大人の新註原本にも、宮内省の圖書寮本にも、無窮會文庫本にも、脱けて居つて、

池邊眞榛大人の名著古語拾遺新註自序の發見 (加藤)

無いものである、それを偶余今回此行に於て、發見することの出來たのは、非常に仕合だつたと思ふ、否之れは獨り余の仕合であるばかりでなく、又實に日本の學界の爲めに欣幸とする所である、これは本會に於て近く出版しようとしてをる池邊大人の古語拾遺新註には、是非附ける計劃であるが、それに先つて本序文に親炙したい希望の人々も、學界には幾多あることゝ信ずるから、差當り本會紀要に於て之を公にして置くこととする、該序文の本文は左の通りである。

許碁自宇韋斯無知紆能端文

石上イソノカミ古事記コトブミ足檜木タシヒキ能日本書記ニッポンノシヨキ袁除氏ノゾキテハ波現ハウツソノ身能イマノ今世イマノヨ爾ニ梓弓アツサユミ往昔イニシヘノ能御世ノミヨ御代ノミヨ
能心ノココロ辭コトバ袁知ノシラセ倍伎フミハ書波シヨハ、是能コレノ古語コゴ拾遺ツツキ爾ニ那母ナハハ在アリ祁琉ケル。然有サル乎ヲ此書コノシヨ與フミヨ、三粟ミツクリ能中ノナカ
古能ムカシノ頃コトヨリ與ヨリ理リ、苜薦カリコモ乃ノ美ミ施シ理リ賀ガ波ハ志シ玖ク那ナ理リ豆マメ、世ヨ々ハ乎ヲ志シ母ハハ布フ留ル加カ良ラ小野コノ能ノ本モト柏カシハ
毛登モト能ノ眞能マコトノ書波シヨハ、五葉イツハ能ノ松マツ乃ノ伊都イツツ斯シ加カ茂モ知チ理リ煩ワザ比ヒ宇ウ勢セ豆マメ、長柄ナガラノ能ノ椅ヘシ乃ノ橋ハシ柱シラサキ朽ク
殘多ノコリタ留會ルゾ、要子ヌエコ鳥トリ宇ウ良ラ鳴聲ナクコエ乃ノ卜部ウラベノ之家イヘ爾ニ波ハ傳ツタ而在ル、故カレ此家コノイヘ主ノ之ノ君キミ兼カネ夏ナツ兼カネ豐トヨ大オホ
人那シナ杼ナド、手曳テヒキ乃ノ糸イト能ノ甚ヘミ母ハハ亂ミダレ豆マメ讀ヨミ解トキ難ガタキ乎ヲ、山菅ヤマスゲ能ノ禰ネ毛モ許コロ々ハ呂ロ々ハ爾ニ、村肝ムラキモ能ノ心ココロ遠トホ

勢免^{セマ}豆^ト訂^{テイ}正^{テイ}而在^ニ會^ノ、今^{イマ}乃^ノ世^ノ能^ス印^ス本^ノ種^ノ々^々、爾^ニ波^ハ保^ホ昆^コ古^コ理^リ多^ダ留^ル、然^{シカ}者^ハ阿^ア禮^レ杼^ド毛^モ、花^ハ
 勝^{ガツ}見^ミ且^{カツ}且^{カツ}茂^モ鳥^ト網^{ナミ}張^{ヘル}佐^サ訶^カ志^シ良^ラ行^ワ爲^ザ登^ト見^ミ由^ユ留^{ルト}所^ノ乃^ノ、猶^ナ除^{ホノ}良^ノ奴^ラ條^ス々^々、麻^マ生^フ能^フ浦^ウ梨^ラ那^ナ志^シ
 登^ト母^モ定^サ難^{ダメ}那^ダ母^ク、又^マ言^ダ餘^{ゲム}抄^{ヨシヤウ}節^{セツ}解^{カイ}句^ク解^{カイ}奈^ナ杼^ド是^{コレ}彼^レ登^ト劍^{ケン}刀^ト解^ト顯^{ケン}志^シ而^ニ在^ル毛^モ阿^ア禮^レ杼^ド、虛^ソ空^ラ
 計^{カツ}大^{オホ}形^{カタ}者^ハ言^フ佐^サ幣^ヘ俱^グ漢^{カラ}國^{クニ}意^コ從^ロ解^ト著^シ述^ダ多^ダ留^ル者^モ爾^ニ志^シ阿^ア那^ナ禮^レ婆^バ、夫^ソ入^レ紐^{ヒモ}乃^ノ同^{オナ}誤^{シヤ}多^ダ志^シ豆^ト、
 虛^ソ空^ラ見^ミ津^ツ大^{オホ}和^ト魂^{タマシヒ}爾^ニ畝^{ウネ}這^ハ豆^ト乃^ノ忠^{マン}爾^ニ解^ト盡^{ツク}禮^レ多^ダ留^ル波^ハ、吳^ケ竹^{ダケ}乃^ノ世^ノ爾^ニ甚^シ毛^モ之^シ袁^ウ、武^ム藏^{サウ}野^ノ
 能^ノ日^ニ下^サ部^{カベ}氏^{ウジ}乃^ノ千^{チヨ}萬^{マン}乃^ノ異^{コト}本^{マキ}乎^モ以^テ豆^ト、御^ミ食^ケ能^ノ迦^カ牟^ム加^カ比^ヒ校^{コウ}正^{テイ}佐^サ禮^レ多^ダ留^ル乎^ラ、春^{ヘル}山^{ヤマ}之^シ花^ハ
 和^ワ主^{ヌシ}賀^ガ櫻^{サクラ}木^キ爾^ニ令^シ句^ク而^ニ在^ル會^ノ、阿^ア留^ル賀^ガ那^ナ訶^カ爾^ニ玉^{タマ}乃^ノ小^{コト}琴^{コト}能^ノ許^{コト}登^ト爾^ニ勝^ス多^ダ留^ル奈^ナ理^リ祁^ケ琉^ル。
 佐^サ禮^レ杼^ド母^モ是^{コレ}將^{ハダ}解^ト言^フ籍^{ゴト}那^ナ良^ラ禰^ネ婆^バ、穉^{ウヒマナヒ}學^{マナヒ}徒^{ヒト}輩^ト能^ノ可^ミ見^{ベキ}爾^ニ者^ハ不^ア足^マ古^コ々^々、知^チ世^セ良^ラ留^ル々^々、麻^マ爾^ニ
 麻^マ、伊^イ加^カ氏^{アテ}登^ト思^ヒ起^キ多^ダ流^ル波^ハ、嘉^{ヨロコビ}永^{コトナガキ}二^ニ年^ト登^ト云^フ歲^ト結^ス垂^ル流^ル倭^ツ文^フ二^ニ十^ニ登^ト云^フ歲^ト能^ノ間^ノ也^{ナリ}鳧^{ケリ}。
 雖^{シカ}然^レ未^レ甚^シ黃^{ワウ}口^コ爾^ニ而^ニ摩^マ那^ナ婆^バ斯^シ羅^ラ學^{ガク}淺^シ久^ク、黏^ネ鳥^{トリ}能^ノ加^カ々^々留^ル事^{コト}爲^ス倍^{ベキ}伎^チ力^{リキ}車^{クルマ}能^ノ下^シ簾^{シタ}懸^ケ豆^ト
 毛^モ無^ク者^ハ更^サ爾^ニ茂^モ不^レ言^フ、世^{ヨノ}勢^セ之^シ事^{コト}每^ト副^{サヘ}多^ダ在^ル者^ハ、是^{コレ}也^{ナリ}彼^レ也^{ナリ}登^ト塞^サ良^ラ禮^レ豆^ト許^{コト}許^{コト}良^ラ乃^ノ年^{トシ}頃^{ヨロ}、
 佐^サ豆^ト於^オ幾^キ津^ツ留^ル袁^ウ、此^{コノ}頃^{コト}白^{コホ}地^チ爾^ニ思^ヒ立^チ豆^ト如^{カク}斯^{カキ}書^ス寸^サ佐^サ比^ヒ多^ダ流^ル物^{モノ}加^カ良^ラ、吉^キ備^ヒ之^シ中^ノ山^{ヤマ}中^ノ

池邊眞様大人の名著古語拾遺新註自序の發見（加藤）

池邊眞様大人の名著古語拾遺新註自序の發見（加藤）

四

ナカニモノコナヒナルコトドモオホカケレドソヘミムヒトノオホハナスコ、ココ、コニ、
々爾物損奈留辟說共多加流倍祁禮抒、其者見人乃面爲心々爾、引馬之野邊爾

サキチルツバナノツハラカニニ、サシデノイウニサシテフシヘサトダマヘムコトヲ、
咲散茅花能委曲爾、指出之磯爾、佐斯豆教諭賜牟事乎。

オホエドミダノダビヤドニ、ウツラナスイヘヒモトホリウツヨウウチネツキヌキテコヒノミマラスヨノヘ、
大江戶三田之旅舍爾、鶉成伊這茂登保理、鷓自物頸根衝拔、豆乞禱申者波、玉櫛

ゲフダナノシマナルミケムカアヘンクニノミダミ。
笥二名洲那留御食向阿波國御民。

池邊太平眞様（在判）

安政二年三月十五日

戊辰紀元節附看梅有感（疊韻）

存志堂主人

皇宗肇國化新開
彌仰呈謨宏遠業
永劫誰忘此日來
巍然眞是帝王魁

赫々當年偉業開
獨尊萬世速綿主
每逢此日感重來
六大洲中德化魁